

教育文化常任委員会

令和3年6月11日（金）

教育文化常任委員会

定例会名 令和3年第2回定例会
招集日時 令和3年6月11日(金) 午前11時55分
招集場所 議場

出席委員 7名
委員 長 長 田 麻 美
副委員 長 鈴木 勝利
委員 黒 木 のぶ子
" 柳 井 哲 也
" 遠 藤 憲 子
" 守 屋 常 雄
" 池 辺 己実夫

議会事務局出席者
書 記 野 口 治
書 記 椎 名 紗央里

令和3年第2回牛久市議会定例会常任委員会議案付託表

○ 教育文化常任委員会

意見書案第4号 学校教育におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を適切に進めることを求める意見書の提出について

午前11時55分開会

○長田委員長 おはようございます。

柳井委員より遅参の届出がありました。

ただいまから教育文化常任委員会を開会いたします。

本委員会に付託されました案件は、

意見書案第4号 学校教育におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を適切に進めることを求める意見書の提出について

以上1件であります。

なお、会議録を作成しますので、マイクを使用して発言いただきますようお願いをいたします。これより議事に入ります。

意見書案第4号、学校教育におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を適切に進めることを求める意見書の提出についてを議題といたします。

意見書案第4号について、意見のある方は御発言願います。遠藤委員。

○遠藤委員 それでは、意見書案について述べたいと思います。

本会議場でも、提案者のほうから御説明ありましたが、デジタルトランスフォーメーション、そういうSociety 5.0といった企業原理とか経済上の言葉、これはなかなか教育とはなじまないのではないかというふうに私どもは考えます。あくまでも教育は子供を主体にしたものにしなければならないのは当然でございます。今、ICTを活用した時代の流れということもありまして、こういうICTというのは使うことを目的にあってはならないというふうに考えます。

子供たちにとりまして、やはりこのICTを使った授業というのはもちろんそうでございますが、子供たちがどういうふうにこれから伸びていくのか。タブレット等、子供たちが自律的に学べるよう、そういうような方向というのはあると思いますが、あくまでも子供を主体にしたこの教育というのを望んでおります。

よって、今のこの出されました意見書については大変なじまないものが多くあるので、私どもでは反対をしたいと思います。

○長田委員長 ほかにありませんか。黒木委員。

○黒木委員 この適切に進めることを求める意見書ということでもありますけれども、DX、要するに略称でデジタルトランスフォーメーション、確かに今やっとなら日本におきましてGIGAスクールということが各自に渡されたわけなんですけれども、やっぱりあくまで電子機器というのは個人が道具として使うべきものであって、全て教育に対してこれを全面的にということ、ここでも疑念を示されている、学習の基本能力である読解力の低下が危惧されるということでもありますので、まさに今の若い人たちは、隣にいる人に対しても言葉じゃなくてパソコンを使ってメールで送るということ、極めてコミュニケーションに欠けるというようなことなんで、やはり社会性をつかさどるという意味では、人間というのはコミュニケーションが大変重要な要素がありますので、そういう面ではやはり全て進めるということに対しては、先ほども申しましたように、道具、道具を上手に使うということは必要だろうと思いますが、全面的にそれを推奨するという

のは、やはり教育現場におきましても、少々問題が発生していくのではないかとこのように考えます。

それと、3番項ですね。記の3番。個人認証システムということで、そういう個人情報の保護法ということになりますと、小学生、中学生の、みんな今日本、番号制になっているんですけども、やっぱりその個人認証システムそのものがいろいろ問題もはらんでおりますので、その辺についてもやはりまだこれから議論していかなければならないし、それをちゃんとしっかりとした担保をするためには、法律的なものもやはり必要になっていくのではないかと考えております。

そういう意味合いからも、全体を通しまして、これから推進しなければならないということではあるんですが、繰り返しになりますが、やっとGIGAスクールということで途についたばかりなのに、何歩も先にと言われると、私ども昭和の生まれにつきましては、なかなかそれについていくということもないですし、今の子供たち、ほとんどこの間、一般質問だったか何かでちょっと記憶が曖昧なんですけれども、やはり視力の低下、それと脳に対するブルーライトですか、それがあまりよくないと言われている部分から、やはりこの問題については今後十分に議論していかなければならないというふうに考えているところなので、その辺をもう一回、子供たちの健康、あるいはあまりにも一度にいろいろなものを持ってくるということになると、一見よさそうであるけれども、逆に子供、まして現場をつかさどっている教職員に対しても重荷になっていくのではなかろうかと考えているので、この辺については、ちょっとこれからの議論をする必要性があるんであろうというふうに考えているところです。

以上です。

○長田委員長 ほかにありませんか。池辺委員。

○池辺委員 私は賛成なんですけれども、端的に言って、今この議会や何かもこういった形でタブレットを配付されて、物すごい便利だと思うんですよ。やはり、小中学生のそういう段階から、そういった形のを身につけさせて、将来、ビジネスシーンでもこれからは間違いなく使っていくようなことになると思いますので、これを早いうちからやるというのは物すごい私は賛成です。

以上です。

○長田委員長 はい。

○守屋委員 私も賛成なんですけれども、やはりこれから例えば資産形成をしていく上でも、絶対にこういうことの基本を学ばないと駄目だと思うんですよ。別に子供のときからやりなさいということじゃないんだけど、だから、絶対に、例えばサラリーマンをやるときでも、年金や何かでも、自分の意思とあれでですね、資産形成をしていく必要性もあると思いますので、その1つの勉強のためにも、基礎になることをやるということで、私もこれは絶対に賛成したいと思います。

以上です。

○長田委員長 ほかにありませんか。鈴木副委員長。

○鈴木副委員長 この意見書につきまして重要なところは、ICT機器が活用されていく中で、

それを指導する、支援する立場としての教職員が公平に全ての児童生徒に対して指導、支援ができるようにということで、研修の在り方をしっかりと検討するということが1つ。

それから2つ目は、そうした機器を学校教育予算の中で充実確保していくという、国としてのしっかりとした責任を明確にしてほしいということ。それから、あわせて、先ほど黒木委員さんからの危惧、懸念の中にもありましたが、読解力等の学習の基本的な能力を身につける上ではICT機器の活用だけでは不十分な面が見られますので、紙面の活用、対面学習の併用というのはしっかりと維持していかなくてはいけないということ、こういうことが基本になっております。

また、これは昨日の答弁でもお話をさせていただきましたけれども、子供たちの視力の低下等についての健康上の問題に関しては、学校におけるこうしたICT機器、タブレット端末等の使用だけに限らず、むしろもう今の子供たちは生まれてからすぐに各家庭でスマホ等のこうした機器を使っている現状を見ると、必ずしも学校だけでこうしたデジタル機器の活用だけに責任を求めることは難しいのかなと思います。全体的なことも含めて、こうした視力の低下等の健康上の問題について議論をするのであれば、学校だけの問題ではなくて、家庭も含めた話をしていかなければいけないのかなと思っております。

以上でございます。

○長田委員長 ほかにありませんか。黒木委員。

○黒木委員 提案者の本人が言いましたので、今答えが説明になったような気がいたしますけれども、この個人認証システムということは、先ほど言いましたように、上のほうでは個人情報の取扱いを得る管理も含めた研修ということになってはいますが、この辺について、今提案者の説明にちょっと理解できないことがありました。もう一回、この辺について説明いただければと思います。

○長田委員長 今は意見の場なので、質問の場ではないので、この答弁に関してはなしにさせていただきたいと思っております。ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○長田委員長 以上で、意見書案第4号についての意見を終結いたします。

続いて、討論を行います。討論のある方は御発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○長田委員長 以上で討論を終結いたします。

これより意見書案第4号について採決いたします。

採決は挙手により行います。

意見書案第4号は原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○長田委員長 挙手多数であります。よって、意見書案第4号は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして本委員会に付託されました案件審査は全て終了いたしました。

お諮りいたします。

委員長報告書の作成は委員長一任ということで御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○長田委員長 御異議なしと認めます。よって、委員長報告書の作成は委員長一任と決定いたしました。

これをもって教育文化常任委員会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

午後0時10分閉会